

# 令和6年度 豊後高田市立小・中学校学校運営評価委員会評価書(総括)

評価実施年度	令和6年度	豊後高田市立 桂陽小学校		
学校教育目標	夢や目標に向かい なかまとともに 主体的に行動する 児童の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	A.学校運営評価委員による評価	C.今後の学校の改善策
「園・学・校子・どもたのちの意欲塾と生き盤ると力を伸ばす持続可能な教育の育推進実現	芯の通った学校組織の深化	①学校長・園長・センター所長のリーダーシップのもと、地域の特色を生かした学校・園・学校支援センターづくりの推進 ②「学校評価の4点セット整理票」に基づく「芯の通った学校組織」の更なる深化	〈とてもよい〉保護者会を「桂陽っ子応援団」と命名し、子どもをサポートするというミッションを明確にし、学校組織に取り込み、特色のある学校づくりを推進している。	保護者会の自主的活動を引き続き推進する。学校がより等で一方的な発信だけでなく双方向の情報共有ができるようにする。分掌部会を中心に検証した改善策の重点化を図り、改善ができるようにしていきたい。
	働き方改革	①「チームとしての組織」の機能強化と時間管理における働き方改革の推進 ②各学校の実情に応じた「改善運動」の組織的な取組	〈とてもよい〉「目標協働達成ファイル」を継続的に効果的に活用し、組織として素早く行動できるようになっている。	引き続き、「目標協働達成ファイル」をもとに取組を推進とともに、全体的に計画的な年休取得の実施や持ち帰り仕事の軽減ができるよう個人に応じた改善計画の見直しを行う。
	教職員の資質向上	①新指導要領の確実な実施に向けた研修の充実 ②OJTを通じた人材育成と市教委主催教職員オンライン講座「まなびの扉」など教職員の自発的な研修推進	〈よい〉全教職員による計画的な研究授業や互見授業を通して、6年間を見通して「授業づくり」の取組ができている。ICTを効果的に活用する授業づくりも進めて欲しい。	研修課題としたノート形式で資料を活用していくためのノックフローを整備していくとともに教職員が自主的に参加した研修や他校の授業参観で得られた成果物を自校のICT機器を効果的に活用して、研修力を向上させていく
	(1) 学力向上	①新大分スタンダードに基づいた単元構想による主体的・対話的で深い学びの実現 ②個別最適な学びと協働的な学びを実現する協調学習・仮説検証型授業研究の推進 ③「社会・地域に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメントの質的向上	〈とてもよい〉学力調査をもとに4層分析法を活用して対策を講じることができている。10分間の帯タイムをなくして、金曜日に30分の「夢チャレンジタイム」を設定し、子どもの学びに向かう力を育てようとしている。	短期学力向上プランをもとに基礎・基本の定着や思考・判断・表現力の向上に向けた対応を進めていくとともに4年生からの教科担任制の教科部会での研修の在り方の検証を行う。また、カリキュラム・マネジメントや取組改善の視点を持たせて学校や学級行事の取組改善を推進していく。
	(2) 体力向上、健康・安全教育	①授業改善・「1校1実践」の短期検証・改善を基軸とした運動の習慣化・日常化の推進 ②食育・生活習慣の改善・ツッパ物洗口・「からだづくり」の推進 ③機能的で実践的な危機管理マニュアルの作成・点検・改善及び日常的な危機管理の徹底と家庭や地域と連携した防災・防犯体制の強化	〈とてもよい〉「1校1実践」である体力向上習慣づくりの「のびのびタイム」の取組を計画的に行い、体力調査の結果が成果として現れている。学校栄養教諭と連携し、食育を進めている。	一校一実践である「のびのびタイム」による運動への日常化を引き続き推進とともに、体力向上支援教員の授業研究交流をもとに授業改善につなげられるように対応していく。また、地域と連携した取組を課題にして協議を進めていく。
	(3) いじめ対策・不登校支援	①居場所や絆がある学校・学級づくり実現に向けた、「人間関係づくりプログラム」・「SOSの出し方教育」・「生命の安全教育」の推進 ②いじめ・不登校に係る校内対策委員会等の体制強化と報告・連絡・相談の徹底 ③SC・SSW等の専門スタッフ・関係機関との連携によるいじめ・不登校・貧困対策等への組織的な支援の充実	〈とてもよい〉一人一人の児童を大事にする学校の姿勢で子どもの居場所づくりができている。その一つとしてビリーブとともに連携し、登校支援ができている。今後も安心して登校できる環境づくりを進めて欲しい。	人間関係づくりプログラムの取組として発達段階に応じた取組内容を吟味し、改善を取り入れながら計画を推進していく。さらに、家庭と連携した継続的な不登校傾向児童の人的対応できるよう、関係機関と連携を図りながらすすめていく。
	(4) 人権・部落差別解消教育	①重点目標を明確にした道徳教育の充実と「考え、議論する道徳授業」への改善 ②「差別の現実から深く学ぶ」人権・部落差別解消教育の推進 ③豊かな人間性や社会性を育む地域人材を活用した体験活動の推進	〈よい〉人権・部落差別解消教育を全教職員で計画的に進めることができている。同時に公開研究発表会を実施し、市内の教職員の研修を深めることができた。教職員も児童も学習を積み重ねて欲しい。	本年度の研究の成果や課題をもとにさらに、「自分事として課題を持つ児童」の育成を目指す。また、地域人材による出前授業や体験的な学習を全学年で、計画的に実践しながら教育課程の見直しを行っていく。
	(5) 特別支援教育	①子どもの自立と社会参加を見据えた一貫した教育支援の実現 ②個々の発達特性を見抜く力と対応する組織力の向上 ③発達特性等を踏まえた学級経営力・授業構成力の向上	〈よい〉特別支援教育に係る指導・支援が必要な児童の保護者や関係機関との面談や情報交換を計画的に実施できている。来年度、情緒学級が2クラスに増学級されることから、更に教職員の共通理解を進めて欲しい。	引き続き、年度初めでの新たな指導・支援が必要となっている児童の支援に対応した早期の連携の在り方やそのための改善策の共通理解を図っていく。また、年度途中で要望がある支援が必要な児童の対応やその特性を活かした指導・支援研修を継続して実施していく。
	(6) 幼児教育	①「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の展開と指導の工夫改善 ②「かけ橋プログラム」に基づいたかけ橋期のカリキュラムの作成の推進 ③文字教育や体育教室等の各種学習教室や自然体験・社会体験活動の充実	〈よい〉幼稚園や近隣の保育園と交流し、かけ橋プログラムの策定に向けていた。全教職員でかけ橋期のカリキュラムの研修に取り組むことで、子どもの発達理解を進めて欲しい。	幼稚園や保育園との定期的な連携や特別支援に係る相談・訪問体制を継続して維持できるよう、低学年部の実践や他学年交流の成果と課題を教職員全体で共通理解を図っていく。また、かけ橋プログラム策定状況を市教委との連携を図りながら、教職員間で共通理解していく。
2. 教育DXの推進		①個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る「1人1台端末の効果的な活用・日常化の推進 ②遠隔・オンライン授業やAIドリル等の活用充実と情報モラルやデジタル・シティズンシップの涵養 ③「1人1台端末を活用した『毎日の記録』導入による児童生徒の不安や困りの早期認知・早期対応	〈よい〉iPadの効果的に活用し、「自分で学ぶ時間」や「伝え合う時間」を交流させるツールとしての機能から更に「個別最適な自分で学ぶ」に深化させようとしている。	毎週「回金曜日」に設定した「ドリームタイム」の中で、夢チャレンジノートの取組の内容理解やその実施に向けた計画を学校全体で推進していく。また、児童理解を図ったり、改善につなげていくための「タブレットでの朝の健康観察」を習慣化する。
		①主体的な学びを育む「学びの21世紀塾」の更なる展開 ②「学びの21世紀塾『うみね』」を基盤とした幼小中高の学びの連続性 ③キャリアノートの活用や職場体験等による「目標をもって生きる意欲や態度」を育成するキャリア教育の推進	〈とてもよい〉中学校進学を見据えた「授業黙想」の取り入れやかけ橋授業の実施等、小中の連携を深めようとしている。「学びの21世紀塾」への積極的な児童・保護者への呼びかけも継続して進めて欲しい。	幼・保・中・高と連携した取組を計画に沿って円滑に実施していくとともにその取組の共通理解を教職員や保護者と共有しながら図っていく。キャリア教育に特化した、中高の卒業生の先輩の実践を活用した取組を行っていきたい。
		①グローバル社会を生き抜くための幼小中を通じた英語力・コミュニケーション力の育成 ②SDGsなど現代的諸課題の解決に向かう思考力・創造力を育成する教育やSTEAM教育等の探究的な学びの推進 ③「暗記のすすめ学」の活用	〈よい〉英語の授業において書くことの指導を重点的に取り組むことで、児童の好感度が高まった。6年生において、英語検定を実施し子どもたちの学習意欲を高めようとしている。	英語評価テストや英語検定を実施し、中学校に向けての4技能の課題対応を今後も継続的な取組として行っていくとともに集会活動で発表の場の確保や工夫を行いながら、聞き方をもとに聞く力の養成にも努める。
「3づくり・と地域のあたたかさを推進するうる人域づ	(3)学校、家庭、地域の連携強化	①子どもたちの文化芸術・スポーツ環境の構築に向けた部活動の地域移行の推進 ②学校・家庭・地域が目標の達成に向けて協働する学校運営協議会の充実 ③世界農業遺産や日本遺産等の伝統文化教育推進による郷土意識の醸成	〈とてもよい〉保護者に開かれた授業では9割を超える参加率に驚いた。地域文化継承の郷土踊りの取組として、高田観光盆踊り大会への2年目の参加や運動会での取組から「児童の踊る姿」を見せて地域へのアピールとなっている。	保護者や地域からいただいた評価をもとに検証を行い、各学年において実施されている系統的な地域学習の在り方を教科横断的(社会科・総合的な学習の時間、国語等)に引き続き実践していく。
	その他			
B. 総合評価		校区を超えて桂陽人気が続いている。その理由の一つとして、保護者会の名を「桂陽っ子応援団」にすることで応援したくなる学校の存在をつくりあげている。3年目になる「夢チャレンジノート」の積み重ねが「めあて」「まとめ」を使って1ページにまとめる力や表現力・文章力といった「書く力」を伸ばしていることは間違いない。「ゴミはない」とリサイクル活動の分別にも力を入れ、得た収入をノートに還元し、「持続可能」を常に見据えた取組ができている。校長のエネルギー満々なリーダーシップのもと、学校が力強く回っている様子を頼もしく感じている。		
D. 校長のコメント		学校組織の構築を目指し、「考え方!伝えよう!そして行動しよう!」のスローガンのもと「チーム桂陽」として、これまでの伝統や校風を大切に引き継ぎ、3ヵ年間にわたって取組を推進してきました。児童や保護者、そして地域の学校へ寄せる期待や要望は日々変化を繰り返しています。その変化に即対応できる学校が求められていると感じています。今回の評価をいただき、さらに求められる学校づくり、児童の資質や能力を伸ばせる学校づくりを、教職員が一丸となって共通理解を図り、組織的に実践に移せるよう努めて行きたいと考えます。そのため指導と評価の一体化を徹底させてまいります。		